

私

私たちは、東京・日本橋で下町を再生する「みち・まちづくり」の活動を進めている。例えば、富士山に向かう軸線上に発展した日本橋の町を可視化するための電柱の地中化、歩道と並木の景観デザインを重視した旧奥州街道整備と沿道の街並み、建築のデザイン・スタディを地元町会の方たちと提案している。神田と湯島は、幕末から明治に学問所や大学が設置された地域であり、諸外国から日本に先進的な知識学術を導入する役割を果たしてきた。散在する文化資源を拾い集めて、「ニコライ堂」「湯島聖堂」「神田明神」「湯島天満宮」といった歴史のお堂お社を基軸に、この地域の再評価と再生の方策も検討している。

隅田川から日本橋川、神田川を遡る江戸城外濠は、ビル街と化した東京都心において、広大な空と緑と水面を有する貴重な公共空間であり歴史的遺構である。この数年、外濠に隣接する神楽坂をホームとする東京理科大学と法政大学が幹事となって、地元町会、高校、地元企業と連携、「外濠市民塾」及び「外濠再生懇談会」を開催して、外濠の水質と景観や環境の改善を目指して地域貢献活動が続いている。

いずれも、特徴ある東京の地形上に江戸開府以来四〇〇年かけて建造した社会基盤とランドマークによって秩序づけられた空間特性を継承する地域で、そこには場所に付随する幾多の物語と東京の文化資源がある。それらを活用しつ

各 人 各 説

社会基盤と知のインフラの実装

建築家／東京理科大学教授

宇野 求

Motomu Uno



つ東京の特徴と魅力を整えて世界に紹介しようと、こうした活動をしている。

十九世紀の東京は、ヨーロッパの街をモデルに港と鉄道、水路と橋を整えて、都市の大改造を進めた。二十世紀の東京は、大震災と戦災を契機に都市の耐火耐震化が計られ近代化を促進した。二十世紀後半には、自動車の時代が到来。道路建設とビル化を推し進めて、東京は大きく変貌を遂げた。二十一世紀になるとグローバルゼーションが進行して、アジア諸都市（シンガポール、香港、ソウル、上海、北京、バンコクほか）が急成長、東京のライバルとして台頭している。そして、現在。都市間競争力を高めるためには、集積の規模、利便性、効率性に加えて、生活、環境、文化、歴史といった都市の質的な魅力が要諦という時代が訪れている。情報化された現代都市において、若く有能な高度専門職に就く人材やその家族は、個別具体的な魅力と特徴を備えた文化的な生活環境を好んで選択する。東京都心部には、文化的希少性や唯一性を備えた質の高い情報が、膨大な量、建造物や物語として蓄積されている。社会基盤である道路、河川、公園、景観のデザインを整えて、そこに知のインフラストラクチャーとしてデジタル空間と情報メディアを重ねて実装することが東京を次世代の都市へと誘い、グローバル時代の競争力を高めることになる。そうした新しい時代が訪れているのである。